

彦根市議会公政会視察復命書

1. 出席者

・彦根市議会公政会

北村收 宮田茂雄 安澤勝 渡辺史郎 西川正義

実施日

・平成25年11月7日(木)

実施地

・国会要望(東京都千代田区霞が関二丁目一番2号)

要望部局等

・総務省消防庁 : 赤松防災課長(AM8:40～9:20)

・総務省自治財政局 : 内藤財政課長(AM9:25～10:15)

・国土交通省 : 足立技監 (AM10:20～11:15)

(1) 防災体制整備について

現 状

東日本大震災が発生した多くの被災地域では、対策本部となるべき多くの庁舎が損壊し、移設を余儀なくされたため、迅速な被災者対応やその後の機動的な復旧作業等地方自治体としての機能が停滞した事象が多数発生した。また、他の自治体等による支援についても、道路等の分断により、救援物資等の輸送が迅速に届かず避難者が困窮していた状況が大きく報じられたところである。

さらに、近畿地方においては、内閣府から発表された南海トラフ巨大地震による被害想定では、甚大な被害をもたらすことが想定され、また、彦根市では東南海・南海地震により著しい被害が生じる恐れがあることから、早急に災害拠点施設の耐震化および備蓄品の整備を図る必要がある。このような状況の下、防災拠点となる施設(市役所庁舎)の耐震補強が進まず、避難所となる公共施設には備蓄品を保管する専用スペース等も少ない状況であり、本市地域防災計画に基づく備蓄品の整備を行っているが、財政面から同計画で定めている備蓄目標数の整備には至っていない。

課 題

災害時に防災拠点となる施設の新築・増築・改修には膨大な経費が必要になることから、平成23年度支援メニューが拡充されたものの、新築や耐震化に直結しない増築は対象にならないなど制約もあり、市単独で整備するには困難

な状況となっている。

また、備蓄食料に消費期限があるため、定期的な入替えを行っているが、財政難かつメンテナンスに要する経費が膨大であることから、本市地域防災計画に記載している備蓄目標数を市単独事業で整備することが困難な状況となっている。

【要望事項】

防災体制整備に係る恒久的な財政支援について

要望内容

地域の財政状況によって、市民の財産・生命を守る対策に偏りが無いよう、防災体制整備事業に係る恒久的な財政支援を願いたい。

具体的には

◎災害時防災拠点の新設・改築時の費用負担

①防災拠点となる施設の耐震化に係る財政支援の継続・拡充を願いたい。

②とくに、現行の支援メニューに該当しない建て替えや増築・改築等に係る財政支援を願いたい。

◎備蓄品整備費用の負担

①各自治体が整備する備蓄品等の購入費用の恒久的な財政支援を願いたい。

(2) 国道8号の渋滞緩和対策（外町交差点の渋滞を含む）について

現 状

彦根市内を縦貫する国道8号は、北は北陸道、国道21号に繋がり、南は京都方面への産業・商業・通勤の基幹道路として不可欠である。このような状況下、国道8号は、市内において連日深刻な渋滞による市民の苦情がよせられているところである。とくに、外町交差点における渋滞は、市民生活にも影響を及ぼしているところである。

課 題

国道8号彦根バイパス建設予定の先線を早期に決定するとともに外町交差点の改良公示が急務である。

【要望事項】

国道8号の渋滞緩和対策（外町交差点の渋滞を含む）の早期実現

要望内容

◎国道8号彦根バイパス建設予定の先線を早期に決定され、実現に向けた取組

を願いたい。

◎外町交差点における渋滞緩和対策として、改良工事を早期に実施願いたい。

(3) 国道306号の整備促進について

現 状

国道306号は、三重県北中部地域と滋賀県湖東地域を結ぶ基幹道路であり沿線地域の経済活動の発展及び活力ある地域社会の形成と地域間交流をはじめとする豊かな生活の実現を得るために必要な重要路線である。しかし、本路線の鈴鹿山脈を越える峠区間は、急勾配・急カーブが連続する山岳道路である上、冬季は4ヶ月間閉鎖されるなど、これまで交通の難所となっている。特に近年は、台風やゲリラ豪雨による災害の発生が頻発しており、通行できない期間が長期化している。

課 題

近年想定されている南海・東海地震などの大規模災害発生時における輸送確保に当該道路は不可欠の道路であるとともに、安心・安全・安定的に通行できる新トンネル（仮称；新鞍掛トンネル）の建設が課題である。

【要望事項】

国道306号の整備促進

要望内容

◎中部・近畿両地域の交流を深め、緊急時には更にその価値を高める通年通行可能な新トンネルを国直轄事業として実施願いたい。